

舟入高校保護者の皆さんへ

ごあいさつ

私こと

この度、定年を迎え舟入高等学校の校長を退くことになりました。在職中には、本校教育にご理解をいただき、ご支援賜りましたことに心より感謝申し上げます。

8年間を振り返りますと、様々なことが思い起こされます。学校長として、正しい判断をするように努力してきたつもりですが、その自信はないのです。にもかかわらず、終始暖かく見守って下さったことが、何よりの救いでありました。

入学式では、「生徒がやりたいことを、やらせないことがある。やりたくないことを、やらせることがある。」と申し上げ、授業が始まれば、「学習せよ」「自分を超えろ」と言い、卒業式では「確信のある過ぎるものを疑え」と申し上げました。「我慢せよ」「勉強せよ」「限界を超えろ」「疑え」と多くの、無理難題を生徒に課しています。この度の、コロナウイルス感染拡大の最中であって、生徒は、まじめに取り組んでいる便りを多くいただいています。このような、生真面目な生徒が、私の言葉を真に受けて、あるいは反発しながら、それでも苦労をしながら、成長しているのは、舟入が舟入である証であると思いました。こういう生徒の支えは保護者の皆さんです。

私は、彼らが時折見せる「愚直さ」が大好きでありました。おそらく、本人も呆れながらやっていると思いますが、そのことに彼らの可能性を感じました。「友人もそうだから」という言い訳が、非常に頼もしく愉快でした。

正直に生きようとするれば、損をすることもあるでしょう。それを、覚悟して正直であろうとすることを「愚直」というのだと思います。この世知辛い世の中であって、疑いながら、真っ当であろうとする彼らに最大のエールを送りたいと思います。だからこそ、少々の損にビクともしない力をつけてほしいと願います。

振り返って、感謝の気持ちを述べようとすると、どちらかという謝罪のそれに近いことに気がきます。それは、私が恵まれていたことの証拠として心に収めておくことにします。

ありがとうございました。

広島市立舟入高等学校
校長 日浦 毅